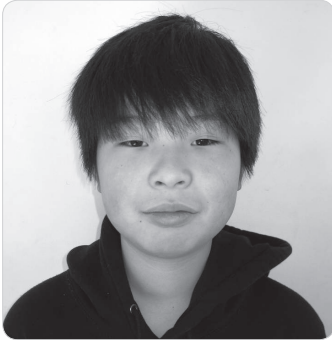




たけひろ
永島 健裕 さん

●吉水小学校 6 年

ぼくの将来の夢

ぼくの将来の夢は一級建築士になることです。きっかけは、テレビのリフォーム番組を観ていて、このように建物を生まれ変わらせることのできる職業に就きたいと思ったからです。

また、ぼくは以前から「こんな家に住みたいな」と考えることがあり、ノートなどにその理想の家の設計図を描くことがよくあります。このこともきっかけのひとつです。

これから建築士になるためにたくさん勉強をしたいと思います。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ



新緑が目に見え、鮮やかな季節となりました。5月は1年の中でも明るく活気のある月として、私も大好きな時期です。

各地域から春祭りなどの便りが届いています。地域で行われるこうしたお祭りなど、その活動の中心となるのは地域の皆様であり、町会であると思っています。今年度、本市では「地域担当職員制度」を導入し、地域と行政との協働のまちづくりを推進します。この制度は、市内20地域の地区町会長協議会へ2名の市職員を配置し、会議などに出席することで、地域の課題や地域づくりについての情報交換を行い、地域と行政とがこれまで以上に連携を図る制度です。私が3期目を迎えるにあたり、公約とした制度がこれから始まります。

先月、佐野市をPRしていただく「佐野ふるさと大使」として、新たに歌舞伎役者の中村鷹之資さん^{たかのすけ}（15）を任命しました。鷹之資さんは、人間国宝の歌舞伎役者5代目・中村富十郎さんの長男であり、お母様が本市の出身です。今月2日からの歌舞伎座での出演も決まっております。今後の歌舞伎界を担う注目の若手役者です。皆様も応援してください。さて、春の花火大会としても人気のある「くずうフェスタ」が9日に、葛生あくどプラザなどで開催されます。ひと足早い夏の気分を満喫しにぜひお出かけください。

また17日からは、中学硬式野球大会である第2回石井琢朗杯が、関東・東北の各地から25チームの参加のもと、開催されます。スポーツ立市を掲げる本市として、今後も人々との交流を図るスポーツツーリズムを推進してまいります。

国指定の唐澤山城跡も初夏の日差しの中、散策によい季節です。皆様も少し外出をしてみてくださいいかがでしょうか。

岡部 正英



今回の表紙 「根古屋森林公園の鯉のぼり」 4月17日(金)撮影

飛駒町にある根古屋森林公園では、5月3日(祝・日)に第14回鯉来まつりが開催されます。この開催に先がけ、公園内にたくさんの鯉のぼりが掲げられています。

最近では家先で見かけることは少なくなってきた鯉のぼり。5月10日まで掲げられていますのでお祭り当日だけでなく、ぜひ見に行ってみてください。

平井 貴善さん (久保町)



○プロフィール

平成7年、航空自衛隊に入隊。

平成19年から防衛省自衛隊栃木地方協力本部足利地域事務所に広報官として赴任。

自衛隊の広報活動などに尽力

熱意・情熱・行動力

平井さんが勤務する栃木地方協力本部は、地方自治体との連携調整、自衛隊の活動のPR、自衛官の募集を目的に設置されています。その中で、平井さんは広報官として、平成21年から佐野を担当しています。イオンなどの新都市ショッピングセンターなどでの広報展を始めとして、市内の学校を訪問するなど、さまざまな場所で、自衛隊への理解を深めていただく広報活動を行っているほか、協力を求めているそうです。

これまで佐野市で自衛官になる人は毎年数名でしたが、地道な活動の結果、一昨年は16名、昨年は13名と飛躍的に入隊者が増え、市出身の現役自衛官は140名程になりました。そのため佐野市は「地域との繋がり」が評価され、平成26年度に防衛大臣から感謝状を受けました。

平井さんの自衛官になる動機は「公務員であること、さまざまな資格が取得できること」だったそうです。平成7年航空自衛隊に入隊。訓練を経て、熊谷基地で給養員として、調理師の資格を取得、12年間の調理業務を経て、足利事務所に広報官と



佐野ケーブルテレビ「ミルン情報局」に出演し、自衛隊をPRした平井さん

して赴任しました。「自衛隊には、さまざまな仕事があり、各人の能力を活かせます。本当にやりがいのある仕事です」と話してくれました。広報官である今、担当した入隊者が頑張っている姿を見ると嬉しくなると言います。

「佐野が大好きなんです！」と自衛官のイメージを吹き飛ばしてしまふような笑顔で熱く語ってくださる平井さんのモットーは「熱意・情熱・行動力」。平井さんが開催に向け尽力している『自衛隊コンサート』が、5月30日に佐野市文化会館で開催され、翌31日には『学生のためのコンサート』が予定されています。ぜひご家族皆様でご覧になつてくださいます。

(市民記者 永倉文子)

平井さん ばんざい

顔などに現れるしみを ジゴクホソビという

血気盛んな壮年期にはからだの表皮(肌)に張りがあり、つやがあつてなめらかですが、老年期を迎える頃になると、肌にみずみずしさ、なめらかさがなくなります。人によつては、顔や手にほくろのような褐色のしみが現れます。このしみを、方言でジゴクボクロまたはジゴクホソビなどといいます。しみの数は、年齢とともに増え、徐々に大きくなっていきます。見目もわるくいやな感じがします。特に女性にとつて、しみは美肌の大敵で、まさしく地獄を感じさせるものです。色や形がほくろに似ていることから、ジゴクボクロというようになりました。古くから使われてきた、もう一つの方言にジゴクホソビがあります。

「年取ると、顔にも手にも、アツチャコツチャ(あちこち)ジゴクホソビができちゃッテさあ。黒っぽい色だンベー、ンだから汚けでねえ」

こぶ・いぼ・ほくろ・あざ・しみなど皮膚に生じるものを、昔はすべてひとまとめにして、一般に「ふすべ」といっていました。ふすべには、むだなもの、役に立たないものという意味があります。たしかにいぼやほくろなどは、なくてもいいものです。このふすべが変化して、ホソビとなりました。ホソビの語頭にジゴクが結び付いて、しみの方言ジゴクホソビが生まれました。昭和二十四・五年頃まで使っていました。その多くは高齢者でした。今では知る人もほとんどなく死語同然となつてしまいました。

(市民記者 森下喜一)

